

3月23日（日） ショートメッセージ

聖書 マタイによる福音書 16章21節～28節 （新約 32頁）
メッセージ 「自分の十字架を背負う」

それから、弟子たちに言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」（マタイによる福音書 16章24節）

（1）今年のイースターは4月20日（日）です。イースターのひと月前にあたる本日と次週の主日は、イエス様が十字架へと歩みを進めはじめた時の記事を読みます。本日はイエス様による受難予告の記事です。

（2）ある日イエス様は、十二弟子を連れて、ガリラヤ地方の群衆から離れ、北部のフィリポ、カイサリア地方へと行きました。そして弟子たちに「人々は私のことを何者だと言っているか」と尋ねました。すると弟子たちは、人々はイエス様のことを、洗礼者ヨハネだ、エリヤだ、エレミヤだ、預言者のひとりだ言っていると答えました。答えを聞いたイエス様は、「それでは、あなた方はわたしを何者だと言うのか」と尋ねました。すると、シモン・ペトロは「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。イエス様はペトロをほめました。

さて、この時からイエス様は弟子たちの前で受難予告を口にされるようになりました。聖書はこう報告します。「このときから、イエスは、御自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた」（21節）。

でも、それは弟子たちにとって納得しがたいことでした。ペトロはイエス様が打ち明けた時、不安になって、イエス様を脇へお連れすると言いました。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」（22節）。イエス様はペ

トロの方を振り向くと、激しく叱責されました。

「サタン、引き下がれ。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」（23節）

そしてイエス様が弟子たち伝えた言葉は、イエス様と共に歩み、復活の栄光にあずかる歩みへと招く教えでした。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを得る」（24節～25節）。

（3）「自分を捨て、自分の十字架を背負う」とはどういうことなのでしょう。古代からキリスト者は、この言葉によって自分自身を振り返り、悔い改めとともに神への感謝へと導かれました。

この言葉は、自らの痛み、苦しみである「十字架」を認めることができない自分を捨て、悔い改めて、自らの痛み、苦しみである「自分の十字架」を見つめ、この十字架を「自分の背負うべき十字架」として、イエス様と隣人と共に背負い、この十字架において救い主イエス様と出会うということであると思います。

わたしたちのレントの歩みが、自分の十字架を認め、背負い、この十字架において救い主イエス・キリストと出会う歩みとなりますように。そして復活の喜びに満たされる日を共に迎えることが出来ますようにと祈ります。（多田玲一牧師）